



たかまる通信 第9号

2005.8.13

討議資料

発行

福岡たかまる後援会

TEL0952-30-0555

e-mail takamaro@takamaro.jp

ホームページ:www.takamaro.jp

独立の気力なき者は、 国を想うことと深切ならず

「学問のすすめ」で福沢諭吉が述べている言葉です。
あらためて、この言葉を噛みしめてみたい。国際社会における日本、国の中で
の地方、社会の中での企業・団体のあり方を考える上でも、今なお示唆を与える
言葉だと思います。国民の代表者である国会議員は、この気持ちを人一倍強くも
つていなくてはいいけません。郵政民営化をめぐる動きを見てみると、「賛成派」、
「反対派」を問わず、独立した政治家の判断が大切なことを改めて感じました。

郵政民営化法案について

靖国参拝を考える

～中国、韓国の壁を乗り越えるためには～

郵政民営化法案について

8月8日、参議院本会議において郵政民営化関連法案が否決されました。これをもって、小泉首相は衆議院を解散し、総選挙が行われることとなりました。

発足して二年になる郵政公社は、コスト削減、新商品販売、サービスの向上など多くの成果を上げ、これまで以上に地域に密着した郵便局として市民全般に親しまれています。また、高齢者比率が高い佐賀県においては、郵便だけでなく、年金の受け渡し、預金・送金など生活に密着した最寄りのコミュニティとして郵便ネットワークはなくてはならない存在であることは言うまでもありません。

そんな郵便ネットワークを残さなければいけないことは当然のことです。参議院特別委員会での付帯決議においても郵便局において「郵便、貯金、保険のサービスが確実に提供されること」、「現行水準が維持され、万が一にも国民の利便に支障が生じないよう万全を期すこと」といったことが謳

われています。

それでは、なぜ民営化か。それは、330兆円とも340兆円とも言われる個人資産が国債購入など官の方にのみ流れ、民間に資金が流れない仕組みを変えようというものです。人口減少時代の到来を迎える中、行政のスリム化を図らなければなりませんし、その中で市場メカニズムをベースにした民間主導の経済へと舵を切ることが、日本経済全体の底上げにつながるようになるわけですね。マーケットも、経済政策の停滞が懸念されると、株価と円、国債が同時に下落するトリプル安となるなど、行財政改革・構造改革・金融改革などの面での郵政民営化を受け入れる姿勢を示しています。

また、今回の参議院の審議において、経営形態まで含めたあらゆる見直しを三年おきに行うとの方針も示されており、改革を断行する中で国民生活に不都合が生じた場合は見直しをするのとまで示されています。

私は、佐賀に活動拠点を置くものとして、特に

都市部と地方の格差を日々の生活の中で体感している者として、地方における郵便局ネットワークが減少するなどすると、生活利便性が著しく低下することを身をもって感じています。ですから、私はこのような地方の生活利便性を維持していくことに、全力をかけて取り組んでいきます。その一方で、国際競争力のある日本、その中で競争力を持ち得る地方を作るためにも、行政のスリム化による経費の削減に取り組んでいくことも合わせて必要だと思っています。

郵政民営化すれば、地方や地域コミュニティを守れないのか？そんなことはないと思います。三二歳の私が今後長きにわたって政治に携わっていく間、真に国民のためになる改革であるかということを常に勇氣を持って監視していきます。そして、万が一にもその方向性が過りだと思いう時には躊躇することなく正していくように行動します。一歩踏み出そうではありませんか。

『秘せずとも、花は花』



地球市民の会
ミャンマープロジェクトマネージャー
大野 博之

彼は静かに白い封筒を差し出し、「これをハムシー高校寮の改築費のために使ってください。私の仲間たちの募金が入っています。匿名で処理してください。」と私に話を切り出した。そして彼たちの寄付金により、その寮の台所が改築された。

ハムシー高校寮は佐賀市に本部を置く国際協力のボランティア団体『地球市民の会』が支援す

る高校寮だ。この寮は貧困や遠距離といった問題で学校に行けない子供達が寄宿する寮である。ミャンマー連邦南シヤン州の辺境にあるハムシー村は開発から取り残された村だ。特に教育は政府からの支援が行き届かないので、この村は遅れた教育環境にある地域のひとつだ。そのために、この村に住むポオー族の人々は自分たちの子どものために村人が力を合わせて教育の向上に取り組んでいる。たとえば高校のための寮は貧しい村人が少しずつ資金を出し合い運営している。だが、それだけの資金ではこの寮の運営費を捻出するのが精一杯である。したがって寮、食堂、台所、トイレなどは老朽が甚だしく、およそ子どもが住むには日本人では考えられない劣悪な環境だった。子供達はそれでも文句を言わず、毎日を健気に過ごしていた。

昨年3月にこの寮を訪れた彼はこの姿に心が動いたという。「自らからお互いに助け合おうと頑張る村人や学習意欲の高い子供達から私たち日本人は何かを学ばなければならない、と考えました。そうすると、自然と私自身が

何かしなければならぬという思いになったのです」と話した。「私は純粹にそう思つて協力をします。」彼は自分の心の中ですべきことだと考えたことはすぐに行動に移す熱血漢である。したがって彼を知る人ならば、彼のこの行為は彼自身が心のままに行っただけであるということとは誰もが理解するだろう。

彼の名は福岡資麿。日本、佐賀のみならず、ミャンマー辺境の人々にも心を砕く男の名前である。



ミャンマーの辺境の村にも教育の光が届いた

特集

靖国参拝を考える

～中国、韓国の壁を乗り越えるためには～



この冊子を、手にされる頃には、小泉首相が靖国神社に参拝したあとかもしれません(8月上旬執筆)。中国、韓国をはじめとする近隣諸国が激しく非難する総理の靖国参拝。日本国内の世論も分かれ、新聞・雑誌等でも誌面を賑わわせています。そこで、私なりの考えをまとめてみました。

沿革

靖国神社は、明治二年に創建された東京招魂社が前身となっています。戊辰戦争で戦死・病死した官軍側の兵士を慰霊することが目的でした。その後、西南戦争を経て明治十二年に靖国神社として名称変更され、日清戦争から第二次世界大戦までの外国との戦争による戦没者まで合わせて、今日では二百四十六万六千五百三十二柱の御霊が祀られています。

このうち、第二次世界大戦の犠牲者だけで二百十三万柱を超える方々が祀られています。昭和五十三年に合祀されたA級戦犯十四名の方もその中に含まれています。

昭和六十年に當時の中曽根首相が公式参拝を行ったころから、首相による参拝が外交問題としてクローズアップされるようになり、昨今の小泉首相の参拝については中国・韓国などが反発を強めているのはご承知の通りです。

中国の反応

近隣諸国が日本が引き起こした戦争によって忌まわしい思いをしたことは確かです。その侵略の事実に対しては反省しなければいけません。が、いつまでもこの問題を外交カードとして使わないようにしなければいけません。

中国が強硬姿勢を強めているのには、内政上の問題を外に敵を作ることを目をそらしているのではないかという意見や、中国政府が「先の戦争は日本国民が悪いのではなく、一部の指導者が悪かった」と中国国民に説明していたことに対して、日本の首相がA級戦犯が祀られているところにお参りに行く



のは辻褄があわないといったことなどが言われています。また、対日融和路線を敷くと見られていた胡錦涛氏も、江沢民体制下で培われた反日ナショナリズムの下で、自らの求心力を維持するために反日姿勢を強めるしかないとの見方もあります。

私は外圧に屈するという形で参拝を取りやめることは、絶対に良くないと思います。今後何かにつけて圧力をかけてこれるのは自明だからです。

A級戦犯とは

A級戦犯とは、極東国際軍事裁判(通称:東京裁判)において、戦争の主要な指導者として裁かれた方々のことです。極東裁判は、勝者が敗者を裁いた、方的で不当な裁判であるから受け入れられないといった意見や、英語の「judge ment」の訳をめぐって日本がサンフランシスコ講和条約で受け入れたと言ったのは、「裁判」そのものではなく、「諸判決」という刑の執行のみを受け入れたのだという考

え方もあります。しかし、そもその戦争責任を国際社会において議論し直すというのは現実的ではありません。ここは、政府見解通り受け入れざるを得ないのだと思います。

分祀について

マスコミや識者を中心にA級戦犯を分祀するといった案や、国立の追悼施設を作るといった案があります。分祀については、靖国神社が独自で行って頂ければいいのですが、神社は明確に否定しています。一度祀つたものは、二度と分けることはできないとの見解なのです。政教分離のこともありますから、ここに政治が介入することはできませんし、すべきでもないと思います。

また、追悼施設を作ることは結構なのですが、決して靖国神社の代わりになるとは思いません。

なぜ、参拝するのか

私も、本年六月二十二日に靖国神社を参拝しました。国のために犠牲を払った尊い英霊に対して哀悼の意をささげるとともに、今日の平和の礎を築いていただいたことへの感謝の念を表すためです。しかし、私自身も戦争を決して肯定するわけではないし、二度と戦争を行ってはいけないという強い思いは多くの方と一緒です。

ただ、日本人としての心情の発露として参拝したのです。戦犯も祀られているかもしれませんが、処刑されたあとの霊には罪はないという日本固有の価値観もあります。そして、何よりもなぜ靖国かというのは、多くの兵士達が「死して靖国で逢おう」と言い残して死していったことです。戦没者と残されたものの心と心のつながりを確認する場所だと思ふのです。

反対派が言うように、国家神道として時の指導者が靖国を利用しなかったかと言えば、全くなかったとは言えないかもしれません。しかし、靖国で再び家族・子孫と巡り会えることを信じて死に殉

じた方々に対して、その御霊に触れ、鎮魂することが悪いことなのでしょうか。

ですから、総理が個人の信条に基づいて参拝することについては、私は賛成です。しかし、同時に近隣諸国への説明も丁寧に行っていくべきです。すぐには分かり合えないでしょう。しかし、分かってもらおうとする姿勢が大切なのだと思います。

政教分離に反するとの指摘もありますが、これは政治が特定の宗教を利したり、迫害したりすることを禁止するものであるから当てはまらないでしょう。また、今後総理が替わった場合も、その方の信条で決めることであって、無理に参拝を固定行事化すべきでもないように思います。

この問題は、世論でも大きく意見が分かれています。皆さんのご意見をお聞かせ下さい。



サポーター募集中!! ボランティア

皆様方のお支えがないと日々の活動ができません。
只今、たかまろサポーターズ・クラブの会員を募集しています。

年間2000円から(千円単位)受け付けております。
サポーターの方には「たかまろ通信」を郵送いたします。
このたび、振り込み用紙を作成致しました。必要な方にはお送りしますのでお申し付け下さい。
お知り合いの方にも是非お声がけ下さい。よろしくお願い致します。

振込口座

佐賀銀行県庁支店
普通 1480907
「たかまろ21」
福岡資産

※この口座は公職選挙法により個人献金しか受けることができません。
※企業での献金につきましては、別途届出団体にて受けておりますので、後援会事務所に一報いただければと存じます。

第一回だかまろう 文化フォーラム

五月二十一日、バル21で第一回だかまろう文化フォーラムを開催致しました。当日は、お忙しい中約百二十名の方々にご参加頂き、日本マナープロトコール協会理事の荷見三七子先生に「おもてなしの極意」と題してご講演頂きました。

挨拶・笑顔・言葉遣い・態度・身だしなみ、といったおもてなしのポイントや、湾岸戦争難民救済フライト、ベトちゃんドクちゃん同乗フライト、フィリピン・ゲリラ誘拐事件などフライトアテンダント時代のお話、その経験を通じて得た「おもてなしの心とは」といった貴重なお話を聞くことができました。



全国一斉街頭活動

六月五日、自民党青年部・青年局の全国一斉街頭行動に参加しました。拉致被害者の一日も早い帰還を実現するために断固とした姿勢で臨むこと、イラク人道復興支援活動へのご理解を得ること、公募制度を含めた自民党の党改革などについて説明をしました。車や通行する方々から手を振って頂くなど多くの激励を頂きました。



佐賀公共政策市民ゼミナール

六月六日、アイスクエアビルで開催された「佐賀公共政策市民ゼミナール」の第五回「国会議員に求められる役割」にパネラーとして参加しました。ほかのパネラーは、民主党の川崎稔さんと大串博志さん。自民党から唯一のパネラーで責任重大でしたが、いろいろな意見が交わされとても有意義に過ごすことができました。

国会議員に求められる資質を一言でといった問いには、「本質を見抜く力」と答えました。誰のための政治か？何のための施策か？といったことを政治家は常に自問自答しなければいけないと思います。また、会場からは責任をとらない為政者に対する不満の声もありましたが、政治家が責任を負うことは当然で、シンクタンクなどその政治責任を明確にする機関を作り上げていくことの必要性を申し上げました。

そのほか、財政問題や、工業・農業について、佐賀の活性化策などについて質問が出て、意見を交わしました。



田植え

六月二十五日、二十七日の両日、田植えを体験しました。

二十五日は、私が会員であるNPO法人「夢の学校を作る会」が運営する「土曜たまてばこ」というサタデースクールの「農」の授業。生徒には、自分の範囲が与えられ、田植えは生徒の自主性に任せたものでした。植える間隔が狭すぎる人、植える稲が多すぎる人…。個性あふれる田植えがなされ、生育も非常に楽しみなものとなった。失敗は成功のもと。生徒さんにとってはとても貴重な経験だと思いました。

二十七日は、JA城田の青壮年部有志の方々と田植え。小学生とともに、手植えを体験しました。一列に並んで、目印のロープに沿っての田植えは、みんなでの共同作業という達成感を十分に味わうことができますものでした。

究極の食育は、

自分で作ってみること。小学生による農業体験は素晴らしい試みだと思います。



自民党佐賀県第一選挙区

支部女性局総会

七月九日、自民党佐賀県第一選挙区支部女性局総会が開催されました。保利耕輔先生も激励に駆けつけて頂くとともに、保利先生、今村先生、陣内先生、岩永先生のご夫人もお越し頂き温かい励ましを頂きました。そのあと、原口県議会議長による面白く・示唆に富んだお話で盛り上がりました。多くの方々にご参加頂き、女性の力を改めて感じる一日でした。



日本文化講座

七月十五日、佐賀青年会議所で私が所属する国際渉外委員会が主催する「日本文化講座」に参加しました。国際交流の前提としてまず日本の文化を理解しようと企画したもので、第二目の着物の着付けに続き、二回目は「茶懷石」。

茶懷石とは、千利休が考案した茶事の中でもてなされる和食のフルコースのことだそうで、作法やマナーもさることながら、最後にはおすましや、香の物ですべてのお皿をきれいに返すなど、細やかな心遣いの精神になるほど感心しきりでした。



「ニューリーダー育成塾」二回目

七月十六日、自民党佐賀県連青年局・クラブリバイが主催する「ニューリーダー育成塾」の二回目が開催されました。佐賀から次世代を担うリーダーを輩出することを目指して開催する勉強会の二回目は、参議院議員の有村治子さんが「戦後六十年目の教育改革」と題した講演を行われました。正しい歴史認識の必要性や、殺人や中絶者の増加などに対して命の尊厳をどう教えるかなどについて、分かりやすいお話をいただきました。



佐賀市民体育大会 剣道競技に出場

七月十七日、佐賀市民体育大会の剣道競技に赤松校区から参加しました。一回戦は不戦勝で2回戦の相手は優勝の常連、若楠校区。結果は残念ながら二対三で負けましたが、幸いにも私は二本勝ちしてチームに多少貢献することができました。





冷麺パスタに挑戦!!



作業風景



今回で六回目を迎えた「たかまるクッキング」。
暑い夏を乗り越える、涼しげな冷製パスタをご紹介します。
「トマトソースの冷製パスタ、鯉のたたき」の手軽に作る事が出来ますので是非おためしください。
今回は、アトリエエミを主宰されている田崎エミさんのご自宅での出張クッキング。初めて手打ちパスタに挑戦しました。こねる作業、伸ばす作業、切る作業：どれをとっても思ったよりも難しかったですが、乾燥パスタとはひと味違った風味でした。時間がある時に、是非挑戦してみてください。



トマトソースの冷製パスタ、鯉のたたきのせ

● 材 料 ●

(材料 2人分)

- カッペリーニ・・・90g
下記の手打ちパスタ(市販のサラダスパでもOK)
- トマト・・・2〜3個
(フルーツトマトなど甘いものが良い)
- トマトジュース・・・120グラム
- エキストラバージンオリーブオイル・・・大さじ5
- 鯉のたたき・・・5〜6切れ
- ミョウガ・・・少々
- 塩・・・少々
- ワインビネガー(ボン酢)・・・少々

作り方

- ① トマトは熱湯ぐぐらせ、皮をむき、細かくきざむ
- ② ボールにトマトジュースとトマト、オリーブオイルを入れ、塩で味を調える
(冷蔵庫に入れて冷やしておく)
- ③ ミョウガをきざむ
- ④ 鯉のたたきを刺身状に薄くスライスする
- ⑤ ゆであげたパスタを氷水にとって冷やし、キッチンペーパーなどで水気を切る
- ⑥ パスタを2のボールに入れてソースと絡めて、お皿に盛る
- ⑦ 上にワインビネガーもしくはボン酢に絡めて味付けをした鯉のたたきをのせ、その上にミョウガを乗せる

■ 手打ちパスタ

～ 生 地 ～

- セモリナ・・・100g
- 塩・・・1
- 卵・・・1ヶ
- オリーブオイル・・・少々
- ★デュラムセモリナ粉(カナダ)
- ★ディ・チェコ・セモラ粉(イタリア)

作り方

- ① 材料を全部ボールに入れさばして混ぜ合わせる
ある程度混ざったら手でこねる
(投げたり たいたたり 足で踏んだり・・・してもよい)
- ② 10分程練りこんだら まるめてボールに入れ ラップをする
- ③ 30分常温でねかせる
- ④ 打ち粉(強力粉)をしながら麺棒でのばし 細長くカットする
- ⑤ 沸騰したお湯に塩を多めに入れて茹でる
- ⑥ 温パスタは温かいうちにソースとあえる 冷パスタは冷たいお水をそそぎ よく水を切ってから味をつける

おわりに

毎日暑い日が続きます。また、政界にとつても暑い夏になりそうです。ところで、毎年お盆に行われる佐賀西高等学校同窓会幹事を今年は私たち二十七回生が担当することになりました。

私は、主として配布するパンフレットに対して広告を協賛して頂く担当をしました。しかし、先輩方のところを回ってお話をさせて頂くと快く応対してくださり、またいろんなお話を聞くことができてとても貴重な経験をする事ができました。

今年は、野球部が強く甲子園に行くかもしれないと噂されていましたが、残念ながら準決勝で惜敗を喫しました。しかし、学生たちは本当に良く闘ってくれたと思います。周囲からの期待も多く、プレッシャーもあったかもしれない。しかし、剣道において学生時代に数々の大会に出てきた私の経験からすると、当時は重荷に感じていたプレッシャーも、今では周囲から注目される中で闘うことができた有り難さを痛感します。そのぎりぎりの状況の中で得た経験というのは今でも財産になっています。

選挙においても、当然のようにプレッシャーや不安がつきまといきます。しかし、そのような環境にいたることが出来るのも、実は大変有り難いことのように思うのです。高校野球を通して、その「ありがたさ」を忘れずに活動をしていかなければと改めて感じました。

※ いろんなご意見、ご案内を是非お寄せください。

福岡たかまる後援会

〒840-0804 佐賀市神野東3丁目2番13号
TEL 0952-30-0555
FAX 0952-30-0700
e-mail takamaro@takamaro.jp

〒841-0052 鳥栖市宿町1436
TEL 0942-82-3801
FAX 0942-82-3345

福岡たかまるホームページ: www.takamaro.jp (毎日更新中)